



有機農業をはじめよう！ No.14

第23回有機農業公開セミナー 資料集

美しくおいしい有機野菜を 生産・販売するために

日 時： 2022年3月18日(金) 13:30～15:30

会 場：有機農業参入促進協議会事務局を主会場とした
オンラインセミナー

主 催： NPO 法人有機農業参入促進協議会

巻 頭 言

持続可能な食と農の仕組みづくりのために、農林水産省は「みどりの食料システム戦略」を策定しました。その中に 2050 年までに有機農業面積を耕地面積の 25%、100 万 ha にとの目標も掲げられました。どのような品目でどのような人たちがそれを実現していくかについては深掘りされていませんが、未来に繋ぐべき農業生産の在り方として有機農業がクローズアップされたことは国内の有機農業の新たなステージの始まりと言っても過言ではありません。

化学肥料や化学合成農薬の発達に伴い農作物の収量と品質は飛躍的に向上しましたが、それらがもたらしたひずみと将来への不安も拡大してきています。二酸化炭素を中心とした温室効果ガスが主要因とされる気候変動による自然災害の増大、化学合成農薬の多用や化学合成物質の自然界への無秩序な放出が大きな原因とされる生物多様性の崩壊、モノカルチャー化や土壌消毒剤、除草剤の多用による土壌の劣化、加速する担い手の減少、極めて低いエネルギーの自給率など、日本の農業が未来への持続性を維持していく上での解決すべき課題が鮮明になって来て、その解決方法の一つとして有機農業の可能性があらためて見直される時代が来たと言えるかも知れません。

ただ有機農業による経営を成功させていくための栽培技術の確立や、経営モデルの策定などはまだまだ不十分なところがあります。そのため当協議会では、既存農家や新規就農者が有機農業を経営に取り入れていく上での課題を整理し、よりスムーズに経営を成立させていくために実践者の事例を紹介しながら、一人でも多くの方が有機農業に参入してもらえるような活動をしています。

今回は、山梨県北杜市に新規参入し葉物野菜を中心に栽培されているロケット農場代表の岸根正明氏に、栽培事例をとおり有機農業での経営を成立させるための技術面や経営面のコツを紹介していただきます。作物の特性に応じた適切な圃場の準備、安価に取り入れた農機具や農業資材を活用した省力化技術は、有機農業を志す人たちのみならず、既存の慣行農業者にとっても多くのヒントを含んでいます。多くの皆様が視聴され学びや気づきを得る機会になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、オンライン開催にあたってご尽力いただいた関係各位にこの場を借りてお礼を申し上げます。

2022 年 3 月 18 日

NPO 法人有機農業参入促進協議会

副代表理事 佐伯 昌彦

目 次

プログラム.....	5
------------	---

講師プロフィール.....	6
---------------	---

■基調講演

美しくおいしい有機野菜を生産・販売するために（岸根 正明）	9
-------------------------------------	---

■参考資料

有機農業の経営指標をご提供ください.....	18
------------------------	----

有機農業に関する相談の問い合わせ先.....	19
------------------------	----

有機農業の研修受入先をご紹介ください.....	21
-------------------------	----

賛助会員入会のご案内.....	22
-----------------	----

ご寄付のお願い.....	23
--------------	----

有機農業公開セミナー開催一覧.....	24
---------------------	----

プログラム

3月18日（金）

13:00～13:30	受付	
13:30～13:40	開会あいさつ	佐伯 昌彦 (有機農業参入促進協議会 副代表理事)
13:40～14:50	基調講演 「美しくおいしい有機野菜を生 産・販売するために」	岸根 正明氏 (ロケット農場)
14:50～15:00	休憩	
15:00～15:25	質疑応答	岸根 正明氏 コメンテーター 佐伯 昌彦 コーディネーター 藤田正雄 (有機農業参入促進協議会)
15:25～15:30	閉会あいさつ	

注意事項

- Zoom での表示名は、参加確認を含め、参加申込時の氏名でお願いいたします。
- セミナー開催中は、音声をミュート（消音設定）に、ビデオを停止状態にしてください。
- 質疑応答は、参加者によるチャット機能の利用および直接質問をお受けして、進行いたします。直接質問される場合は、ビデオを開始状態にしてご質問ください。

講師プロフィール

岸根 正明（きしね まさあき）

1970 年、東京都生まれ。山梨県北杜市在住。株式会社ロケット農場代表。28 才の時、就農を目指し就農場所を探し始める。翌年に山梨県北杜市の有機農家で研修を受けながら就農。2006 年に有機 JAS 認証取得。同じ市内の有機農家と共同出荷を始める。2021 年からカット有機野菜の加工を始める。現在は妻と研修生 1 名、パート 2 名で主に有機カット野菜を生産・加工。

基調講演

美しくおいしい有機野菜を生産・販売するために

岸根 正明（ロケット農場）

講師の岸根正明氏は、24年前、28歳のときに山梨県北杜市に就農されました。野菜の露地栽培を主に 2.5ha まで経営面積を広げ、研修生の育成にも取り組んでおられます。

そして昨年より、規格外野菜の収益化と有機野菜の付加価値を上げながら「安全で栄養価の高いおいしいカット野菜ができれば、きっとお客さんは喜んでくれるだろう」との思いからカット野菜の生産と加工をはじめられました。安定した収益を確保しながら、新たな取り組みに挑戦する姿勢は、持続的な農業経営に欠かせません。

今回のセミナーでは、有機農業で高収益を得、安定した農業経営を持続するためにどのような工夫が必要なのか、栽培事例を交えわかりやすく紹介していただきます。これから有機農業に取り組もうとされる方々にとって有益な情報です。

基調講演と質疑応答を通して、参加の皆さまには、これからの農業経営のあり方を考えるヒントを得て、ぜひ、自ら就農スタイルを見つけていただきたいと思います。

美しくおいしい有機野菜を生産・販売するために

岸根 正明（株式会社ロケット農場）

1. はじめに

農業は複雑な条件が絡み合ったなかで営まれます。なかでも有機栽培では、作物の生理生態と土壌のしくみを深く理解することが、栽培技術を習得するためのカギとなります。

ここでは、就農経験をとおして生じた栽培上の課題とその解決策を紹介します。また、経営を持続する上で大切な収益の上がる営農について、昨年からはじめたカット野菜の生産から加工・出荷についても紹介します。

2. 農場の概要

2000 年、東京都立川市から移住し、山梨県北杜市で新規就農を開始しました。圃場の標高は、650～700m で、厳寒期は－10℃まで気温が下がります。

先輩農家の指導を受けながら、1 年目より 20a の畑で多品目有機栽培を開始。未熟な栽培技術と格闘しながら生協への出荷と個人宅配を始めました。

2006 年に有機 JAS 認証を取得し、20 年 3 月に株式会社になりました。

2021 年 4 月から手軽に有機野菜をたべて欲しいという思いで有機野菜 100% の

カット野菜の生産・加工を始め、全 2.5ha のうち 50a で年間 30 品目の野菜をパック詰めした「SUNSUN サラダ」として、愛知県のスーパー「サンヨネ」の 5 店舗、北杜市の「ひまわり市場」に卸しています。

現在の売上は 1,800 万円。妻と地域おこし協力隊員 1 名、パート（加工を担当）2 名の計 5 名で営農しています。



多品目有機栽培の実践

3. 有機栽培に対する考え方

1) きれいな有機野菜はなぜできるのか？

きれいな野菜とは、病虫害の被害が少なく、健康、健全に生育した野菜であり、しかも、おいしい。土壌や野菜に対する知識と栽培体験の蓄積・改善をとおして、きれいな野菜が栽培できるようになりました。

圃場の土壌の性質を知り、栽培作物の特性、圃場と作物の相性を見ながら、マルチや防虫ネットなどの栽培技術を組み合わせ、状況に応じて対応する必



カップに入れて出荷するカット野菜

要があります。試行錯誤を通じて 10 年かかったことも、いまでは新規に借りた畑でも 3 年ぐらいで目標とする野菜栽培が可能です。

それには、栽培のポイントを整理し、1 年を 1 年の結果で終わらせないように、品目、品種、マルチや堆肥など良いと思われる方法を比較して栽培することも大切です。

2) 土づくりは何年もかかるのか？

就農から 5 年目までは、北杜市内の牧場で作られた牛糞、おが屑、オカラ、もみ殻を原料とした牛糞堆肥を 10a あたり 2t 施用しました。6 年目以降は堆肥の使用量を減らし、市内の平飼養鶏場の発酵鶏糞を a あたり 200～300kg 施用するようにし、15 年目ごろからは発酵鶏糞を a あたり 150～200kg に減らし、圃場全体の 3 割ほどは無施肥で栽培しました。そして現在は、栽培作物に応じ発酵鶏糞を必要と思われる箇所のみ施用しています。

今年カット野菜用に作物を栽培した 50a には、比較的栽培しやすい圃場ですが発酵鶏糞を 60 kg (a あたり 1.2 kg) 入ただけです。

一つの圃場のなかでも、また、一本の畝のなかでも、生育の良いところと悪いところがあります。土が締まっているか、フワフワしているかで生育が異なり、土壌の団粒構造の発達が生育に大きく影響していることが観察できます。一般に「土づくり」と言いますが、人間には土をつくることはできません。私たちにできることは、環境を整え、土ができる（良くなる）のを手助けすることです。

私は、土が肥える（良くなる）ために必要なのは肥料ではなく、土を団粒化することだと考えています。痩せた土壌は、耕耘すると硬く締まってしまいます。このような場合、土を細かく砕かずに荒く耕耘しマルチを張ります。すると、土の塊と塊の間の隙間に作物の根が張り、まるで団粒化が進んだ土のように作物が生育するようになります。また、通路にベッチなどの緑肥作物を栽培することで、換金作物を栽培しながら土づくりもできます。このように、圃場の表面の土のみを見るのではなく、作土を立体的に観察することで、土づくりに必要な期間を短縮できるようになりました。

新規就農時に借りられる畑は、水はけが悪いなど栽培条件の悪い圃場が多いのが現状です。そんなところでも、いかに作物の根はりを良くするかを工夫し、少しでも条件を良くすることが大切です。

3) 有機野菜で高収益を上げることは無理なのか？

どのように栽培計画を立てるかで、年間の収益が決まります。どの圃場に何をどれぐらい栽培するのか。土壌の特性と栽培する野菜の性質を見極めた栽培計画が立てれるかどうかで、収益が大きく異なるからです。

また、売り先とのマッチングも大切です。販売店、消費者のニーズに合わなければ、農産物は売れず、収益につながりません。出荷先に栽培に関わる費用を理解してもらい、単価をどのように設定するかも重要です。

たとえば、1ha の圃場を有機栽培で営農するとします。その場合、比較的土壌条件のよい 30a に栽培の重きを置いて収益が上がる作物を栽培し、残りの 70a では将来栽培したい作物を試したり、土づくりに力点を置いた栽培をしたりするようにします。すなわち、圃場全体で 100 点満点の収益を目指したリスクの高い栽培ではなく、生活に必要な収益を確保しながら、まずは及第点、次年度も農業を続けられる営農を目指すべきです。そして、年々収益を上げていくように圃場全体の栽培方法を改善すべきです。

4. 栽培の実際

1) 葉物のマルチ栽培 育苗定植で回転数を上げて高収益を狙う

標高の高い地域では、強い陽ざしと寒暖の差、そして強い風が吹き、空気中の水分は奪われ乾燥し、欠株の原因となります。

当地で春先の早出しレタスを栽培するには、2月下旬のまだ寒い時期に定植をしなければなりません。いかに地表の水分を保持した栽培にするかを考えたとき、適度な水分を含んだ土をビニールマルチで畑ごとカバーするのが最も効率の良い方法です。

全面マルチに、特別な機械を導入する必要はありません。大面積なら別ですが、20～30aなら良

く使う平畝マルチャーで全面マルチをすることができます。すなわち、2重にしたマルチの平畝を作り、上の1枚を真ん中で切り開きます。太陽熱養生処理の要領です。開いた通路の重なりは、マルチピンで2m間隔に止めます。それほど時間もかからず手ごろな機械で全面マルチが可能となります。水分、地温ともに安定し、生育も早く揃いが非常に良くなります。畑作りには多少時間がかかりますがトータルで考えると効率が良い方法です。

2) 摘み取り系葉物栽培 株間を広げ脇芽を増やし収量を上げる

春菊を例に、省力で収量が上がる方法にたどり着いた経過を紹介します。

以前は1m畝幅に播種機で4条の直播をしていました。種の性質上、発芽率が低いので厚めに播くことになりました。しかしそうすると、収穫初期の収量が上がりますが、中盤から脇芽が伸びなくなり葉も小さくなってきます。何度かに分けて播けば、収量を維持できますがその分面積が必要となり、管理の時間もかかってしまいます。

どうにかならないものかと、はじめは

9715のマルチに1穴に5粒ほど播種してみました。直播に比べるとかなり収量は上がりましたが、後半の脇芽が伸びません。

つぎに、株間を広げて3430のマルチに1穴7～8粒で播種してみました。前半は収量が少ないものの中盤から太い脇芽がどんどん出て、それが後半まで続きました。この経過を目の当たりにし、ようやく春菊は脇芽を採るものなのだと理解ができました。この方法のメリットは脇芽が太くなるので収穫の手数が減ること、秋作は8月下旬に一度の播種で12月中旬まで収穫可能にな



全面マルチによるレタス栽培（2月下旬定植）



播種方法を工夫し、脇芽の収穫で高収量を上げた春菊

ること、丈が上に伸びないので不織布のべたがけやビニールトンネルが可能になること、種代、資材費が抑えられること、などです。マルチを張るときに、十分な水分があればしっかり発芽するのでぜひ試してください。

なお当地では、この方法で8月25日に播種すると収穫開始は9月27日、11月下旬から不織布べたがけを行い12月中旬まで収穫が可能です。

3) マルチ長ネギ栽培

ビニールマルチを使って、土寄せなしに長ねぎを栽培する方法を紹介します。雑誌「現代農業」に実践されている方の記事が載っていて、それを自分なりにアレンジしました。

作業がマニュアル化でき土質の適応範囲も広く、10aあたり1作で70万円程の収入が得られます。新規就農者の経営基盤を安定する栽培として、特におすすめです。

畝立、マルチ張りまでの行程に手間はかかりますが、ここさえしっかり準備しておけば除草や畝立、収穫調整作業も楽で、栽培期間も短くなる。栽培手順は以下の通りです。

- ① 4月上旬セルトレイ 288 穴に 1 穴 4 粒播き。
- ② 5月中旬畑に仮植。間引かずそのまま 3715 マルチに植え付ける。
- ③ 7月畑の準備。20cm の高畝、畝幅 1m、白黒マルチ使用。
注意点として、後で穴を開けたときの土崩れを防ぐため、マルチを張る前に畝表面 5cm 程を灌水する。
- ④ 4 条（条間 30cm）の穴あけ器（自家製、写真参照）で、株間 8cm に深さ 30cm ほど穴を開け、抜き取った苗を穴に落としていく。10a あたり 28,000 本程になる。
- ⑤ 9月中旬から収穫開始。



自家製穴あけ器。足を乗せ体重をかけ押し込む



育苗状況（仮植床）
写真提供は、山梨県



マルチ張り



定植直後



生育期

適期では、植え付け後 40 日程で収穫が可能となります。マルチをしているので生育が早く、土の跳ね返りによる病原菌の進入、加湿乾燥の心配もありません。

しかも、山梨県の実証試験結果（2021 年）では、①病害の発生が少ないため、収穫率が高い、②雑草の発生が少ないため、除草はしなくても良い、③栽植密度が低いため、収穫が容易で、汚れが少ない、④苗の深植えにより、白色部の長い高品質生産ができる、などの利点が明らかにされ、省力的で収益性が高く高品質な生産が可能と評価していただきました。

5. 有機カット野菜

畑でとれる旬の野菜をカップに閉じこめてお届けしています。

規格外野菜の収益化と有機野菜の付加価値を上げる方法はないものかと、ずっと考えていました。そこで今後ニーズが増え、「安全で栄養価の高いおいしいカット野菜ができたなら、きっとお客さんは喜んでくれるだろう」との思いからカット野菜に挑戦し、野菜の生産から加工・出荷までを手掛けています。

1) カット野菜の加工

まず農場の敷地内に4坪のプレハブを設置し、水道、3層シンク、作業台を入れ昨年4月から試作をはじめました。プレハブはじめ作業台、シンク、冷蔵庫などを中古品で揃え、かかった費用は約150万円です。

カット野菜は加工品であるため、消費期限の設定と菌数管理をしなくてはなりません。安全な殺菌方法を探すのは思いのほか大変でした。試行錯誤の結果、国内の有機カット野菜の洗浄のほとんどが、酸性電解水で行われていることを知りました。酸性電解水は、塩水を電気分解したしもので人体にも悪影響はありません。早速、電解水生成装置を製造・販売しているホシザキ株式会社に相談し、昨秋に規定菌数まで減らすことができました。

カット野菜は、図1の工程で生産しています。

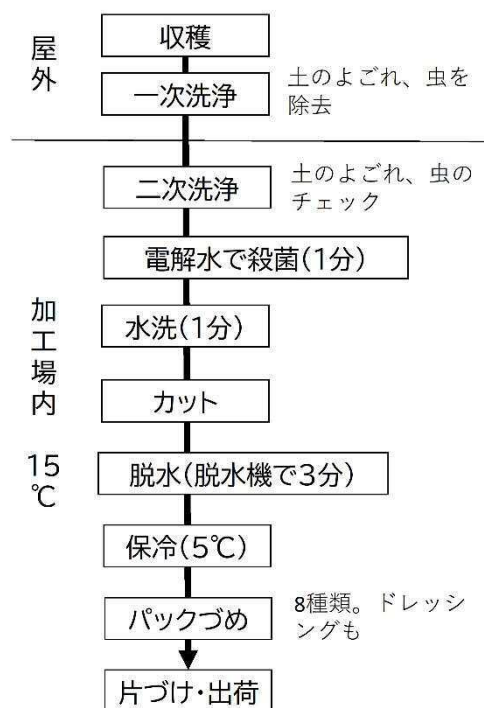


図1 カット野菜の生産工程

夏季は6時、冬季は7時から収穫し、17時に片づけまで終了。集荷は18時ごろ。



カット野菜の加工

左：プレハブ内のカット野菜加工場。右上：パック詰めした製品「SUNSUN サラダ」。右下：出荷を待つ製品には、野菜とドレッシングの消費期限などを表示

現在、1年を通じて、1日あたり 250 パックを出荷しています。1 パックに 8 種類の野菜（たとえば、サニーレタス、玉レタス、グリーンリーフ、キャベツ、ダイコン、ベビーミズナ、ベビーターサイ、ベビーラディッシュ）を詰め、地元で生産した有機ドレッシングを付けて「SUNSUN サラダ」として出荷しています（写真）。野菜の賞味期限は、冷蔵保存（1～10℃）で製造日から 3 日を設定しています。

2) カット用野菜の栽培

カット野菜用に、冬季はハウスを活用し年間を通じて栽培しています。土地柄夏季や冬季に確保できないサニーレタス、セロリは、長野県の関農園、大分県のさとう農園の協力を得て 8 種類の野菜を揃えています。

250 パックを製造するのに必要な野菜は、サニーレタス 20 株、玉レタス 10 株、グリーンリーフ 10 株、キャベツ 3 玉、ダイコン 3 本、ベビーミズナ 4 株、ベビーターサイ 250 本、ベビーラディッシュ 250 本です。

前述のように、50a の畑で、生育期間の短い野菜を少量ずつ何度も栽培し、トレーでの栽培も取り入れています。換金作物を 2.5ha すべてで栽培していたときに比べ、時間的にも体力的にも余裕がもてるようになりました。



カット野菜栽培

左：カット用ハウス栽培レタス。右：ベビーラディッシュをトレーで栽培。

6. 有機農業の高収益化は可能である

露地栽培を主としていたときは 3ha で 1,000 万円の売り上げがやっとでしたが、カット用野菜を栽培・加工した今年度は 50a で 1,800 万円の売り上げがありました。しかも、時間的な余裕が出て、毎週金曜日の午後に研修生や近隣の新規就農者と有機農業の勉強会を始めることができました。栽培のポイントや独立就農に向けた準備、独立後の課題をともに学んでいます。

その上、カット野菜「SUNSUN サラダ」を購入した消費者からは「苦手な野菜が食べれるようになった」などの感謝の声が届き、経営的にも、精神



店頭に並ぶカット野菜「SUNSUN サラダ」

的にも有機農業を实践することへの充実感が高まっています。

繰り返しになりますが、栽培技術を向上しながら、土壌の特性と栽培する野菜の性質があった栽培計画が立てれるようになれば、そして売り先とのマッチングが可能になれば、有機農業での高収益は可能です。自らの有機栽培レベルを上げ、そして地域の栽培レベルを上げながら有機農業の拡大に貢献していきたいと思います。

参考資料

有機農業の経営指標をご提供ください
有機農業に関する相談の問い合わせ先
有機農業の研修受入先をご紹介ください
賛助会員入会のご案内
ご寄付のお願い
有機農業公開セミナー開催一覧

有機農業の経営指標をご提供ください

経営指標の充実是有機農業の推進に不可欠

新たに農業を志す非農家出身の新規就農者の大半は、有機農業をめざしています。新・農業人フェアにおける意識調査では、28%が「有機農業をやりたい」、65%が「有機農業に興味がある」と答えました。また、新規参入者の21%が全作物で、6%が一部作物で、実際に有機農業に取り組んでいるという調査結果もあります。

しかし、有機農業での就農希望者が、新規就農時に営農計画を作成しようとしたとき、認定農業者になろうとしたとき、また、自らの農業経営を診断しようとしたとき、基礎となる有機農業のデータが入手できないのが現状です。

そこで当協議会では、国の有機農業推進事業を活用して、営農計画を作成するときの心臓部にあたる「経営指標データベース」を作成し、ウェブサイト「有機農業をはじめよう！」(yuki-hajimeru.net)に、「みんなでつくろう！経営指標」のページを開設し、都道府県別、作目別などで必要な経営指標を検索できるようにしています。



経営指標データ提供のお願い

有機農業への参入を促すには、各都道府県の主な作目、作型の経営指標が閲覧できることです。

ここで提供した経営指標を使った方は、ぜひ、自らの経営指標を提供していただくようお願いいたします。使った方が提供者となり、みんなで、経営指標のデータベースを作り上げていきましょう。

都道府県、相談窓口の担当者の方々には、ぜひ、農家が経営指標を作成するための支援をお願いいたします。

「経営指標の記入用紙」は、当協議会のウェブサイトからダウンロードできます。ご提供いただく経営指標は、当協議会まで送付いただき、当方で内容を確認のうえ公表します。

なお、提供いただいた個人情報は個人情報保護方針に沿って、本事業の範囲内でのみ利用します。

NPO法人有機農業参入促進協議会事務局
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-5-12
偕楽ビル（新末広）3階 株式会社マルタ内
TEL：050-5362-1815 FAX：050-3457-8516
E-mail:office@yuki-hajimeru.net

有機農業に関する相談の問い合わせ先

有機農業をはじめるにあたって、どこに相談をしたらいいのかというのが最初の問題かもしれません。全国には有機農業の相談に応じられる団体がいくつもございます。各団体それぞれ特色があり、答えは様々ありますので、色々と相談してみてください。相談窓口情報の詳細は、ウェブサイト「有機農業をはじめよう！」 yuki-hajimeru.net をご覧下さい。

「どこに相談したらいいかも分からない」「有機農業についてまず質問してみたい」などの方は、とりあえず全国相談窓口にお問い合わせしてみてください。

都道府県	団体名	電話番号
全国	有機農業参入全国相談窓口	0558-79-1133
北海道	津別町有機農業推進協議会	0152-76-3322
北海道	北海道有機農業生産者懇話会	011-385-2151
北海道	(公財)農業・環境・健康研究所 名寄研究農場	01654-8-2722
青森県	青森県農林水産部食の安全・安心推進課環境農業グループ	017-734-9335
岩手県	一関地方有機農業推進協議会	0191-75-2922
岩手県	岩手県農林水産部農業普及技術課	019-629-5652
宮城県	宮城県農林水産部農産園芸環境課	022-211-2846
秋田県	NPO 法人永続農業秋田県文化事業団	018-870-2661
秋田県	公益社団法人秋田県農業公社	018-893-6212
山形県	遊佐町有機農業推進協議会	0234-72-3234
山形県	山形県農林水産部農業技術環境課	023-630-2481
福島県	(公財)福島県農業振興公社 青年農業者等育成センター	024-521-9835
福島県	福島県農業総合センター有機農業推進室	024-958-1711
福島県	NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会	0243-46-2116
茨城県	NPO 法人アグリやさと	0299-51-3117
茨城県	茨城県農林水産部産地振興課エコ農業推進室	029-301-3931
茨城県	NPO 法人あしたを拓く有機農業塾	090-2426-4612
栃木県	NPO 法人民間稲作研究所	0285-53-1133
栃木県	栃木県農政部経営技術課環境保全型農業担当	028-623-2286
群馬県	高崎市倉渕町有機農業推進協議会	027-378-3111
埼玉県	小川町有機農業推進協議会	0493-72-1221
千葉県	有機ネットちば	043-498-0389
千葉県	山武市有機農業推進協議会	0475-89-0590
東京都	東京都産業労働局農林水産部食料安全課	03-5320-4834
東京都	NPO 法人日本有機農業研究会	03-3818-3078
新潟県	三条市有機農業推進協議会	0256-45-2888
新潟県	にいがた有機農業推進ネットワーク	090-1853-4974

都道府県	団体名	電話番号
新潟県	NPO 法人雪割草の郷	0256-78-7234
富山県	富山県農林水産部農業技術課	076-444-8292
石川県	金沢市有機農業推進協議会	076-257-8818
福井県	福井県有機農業推進ネットワーク	090-2838-8026
山梨県	山梨県農政部農業技術課	055-223-1618
長野県	(公財)自然農法国際研究開発センター	0263-92-6800
静岡県	一般社団法人 MOA 自然農法文化事業団	0558-79-1113
愛知県	オアシス 21 オーガニックファーマーズ朝市村	052-265-8371
三重県	社団法人全国愛農会	0595-52-0108
滋賀県	NPO 法人秀明自然農法ネットワーク	0748-82-7855
京都府	京都府農林水産部農産課環境にやさしい農業推進担当	075-414-4959
京都府	京都乙訓農業改良普及センター	075-315-2906
京都府	山城北農業改良普及センター	0774-62-8686
京都府	山城南農業改良普及センター	0774-72-0237
京都府	南丹農業改良普及センター	0771-62-0665
京都府	中丹東農業改良普及センター	0773-42-2255
京都府	中丹西農業改良普及センター	0773-22-4901
京都府	丹後農業改良普及センター	0772-62-4308
兵庫県	兵庫県農政環境部農林水産局農業改良課	078-362-9210
奈良県	有限会社山口農園～オーガニックアグリスクール NARA	0745-82-2589
和歌山県	和歌山県農林水産部農業生産局果樹園芸課農業環境・鳥獣害対策室	073-441-2905
和歌山県	NPO 法人和歌山有機認証協会	073-499-4736
鳥取県	鳥取県農林水産部農業振興戦略監生産振興課	0857-26-7415
島根県	島根県農林水産部産地支援課	0852-22-6704
広島県	食と農・広島県協議会	090-3177-0438
山口県	山口県有機農業推進団体協議会	090-4691-9223
徳島県	NPO 法人とくしま有機農業サポートセンター	0885-37-2038
香川県	香川県農政水産部農業経営課	087-832-3411
愛媛県	今治市有機農業推進協議会	0898-36-1542
高知県	高知県農業振興部環境農業推進課	088-821-4545
熊本県	くまもと有機農業推進ネットワーク	096-384-9714
熊本県	NPO 法人熊本県有機農業研究会	096-223-6771
大分県	NPO 法人おおいた有機農業研究会	097-567-2613
鹿児島県	鹿児島有機農業技術支援センター	0995-73-3511
沖縄県	(公財)農業・環境・健康研究所 大宜味農場	0980-43-2641

※ 有機農業相談窓口の登録を希望される団体は、「NPO 法人有機農業参入促進協議会事務局（E-mail:office@yuki-hajimeru.net）」までご連絡ください。

有機農業の研修受入先をご紹介します

NPO 法人有機農業参入促進協議会（有参協）では、有機農業の実施者を増加させるための事業を進めています。

この事業の一環として、北海道から九州・沖縄まで約 160 か所の研修先をウェブサイト「有機農業をはじめよう！」(yuki-hajimeru.net)にて紹介し、就農したい地域、栽培したい作物などで検索ができ、これから有機農業の研修を希望する方に、適切な情報を提供しています。



有機農業の研修をされたり、受けられたりしている皆様に、有機農業の研修受入先をご紹介します。よろしくお願いいたします。

ご紹介いただいた研修受入先には、当方より「有機農業研修受入先データベース作成のための調査」用紙をお送りして、研修内容や施設などについてお尋ねします。ご返送いただいた情報については、研修受入先の皆様にご迷惑をおかけしないように最善の注意を払いながら、ウェブサイトにて、研修を希望される方に情報を提供していきます。なお、ウェブサイトでの登録も可能です。

研修受入先と連絡の取れる情報＜個人（団体）名、連絡先（住所）、TEL、FAX、E-mail など＞を下記までご連絡ください。

皆様のご協力をお願いいたします。

NPO法人有機農業参入促進協議会事務局
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-5-12
偕楽ビル（新末広）3階 株式会社マルタ内
TEL : 050-5362-1815 FAX : 050-3457-8516
E-mail:office@yuki-hajimeru.net

賛助会員入会のご案内

平成 18 年 12 月に施行された有機農業推進法では、国や地方自治体が有機農業の推進に責務を有すること、民間の協力を得て推進することが謳われています。

有機農業参入促進協議会（有参協）は、有機農業推進団体が構成員となり、「公的機関及び民間団体と協働して、有機農業への新規及び転換参入希望者を支援すること」を目的に、平成 23 年 4 月に設立いたしました（平成 26 年 4 月より法人化）。公的機関と民間団体とのさらなる協働体制が整ってこそ、有機農業への参入が促進できると確信しております。

つきましては、有参協の活動にご賛同賜り、賛助会員としてご入会くださいますようお願い申し上げます。

賛助会員の特典

- 会員を対象としたオンライン情報交換会の開催
- メーリングリストに登載し、「有参協通信」などの情報提供
- セミナー、講習会などの会員価格での参加および資料集を無料で配信
- 会員が主催する行事を、ウェブサイトなどを通じて案内

入会申し込み方法と年会費

ご賛同いただける方は、「賛助会員入会申込フォーム」（QR コード）よりお申込みいただくか、「賛助会員入会申込書」（ウェブサイトよりダウンロード）に必要事項をご記入のうえ、下記事務局宛ご提出下さい。お申し込みを随時受け付けております。



賛助会員の年会費は以下のとおりです。

団体：5,000 円（1 口）、個人：2,000 円（1 口）

申込書が受理されますと、会費の請求書が送付されますので、請求書に記載の口座にお振込み下さい。入会した翌月末日までにお納め下さい。なお翌年度からは、年度の初めに年会費を請求させていただきます。

<問い合わせ先>

有機農業参入促進協議会（有参協）事務局

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-5-12

偕楽ビル（新末広）3 階 株式会社マルタ内

TEL：050-5362-1815 FAX：050-3457-8516

E-mail: office@yuki-hajimeru.net

ご寄付のお願い

ウェブサイト「有機農業をはじめよう！」に掲載している情報は、どなたでも無料でお使いいただけます。

本サイトを活用されている皆さまのなかで、「当協議会の活動」および「ウェブサイトのメンテナンスを支援してもよい」とお考えの方がおられましたら、寄付を受け付けております。

ご検討のほどよろしくお願いいたします。



ご寄付は、下記口座にお振込をお願いいたします。

郵便振替口座番号 00520-3-62145

加入者名 有機農業参入促進協議会

または

銀行口座 三井住友銀行上野支店 普通 8528852

加入者名 特定非営利活動法人有機農業参入促進協議会

※ 恐れ入りますが振込手数料はご負担ください。

ご寄付をしていただいた方は、差し支えなければ下記までご連絡していただきますようお願いいたします。

NPO法人有機農業参入促進協議会事務局
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-5-12
偕楽ビル（新末広）3階 株式会社マルタ内
TEL：050-5362-1815 FAX：050-3457-8516
E-mail:office@yuki-hajimeru.net

有機農業公開セミナー 開催一覧

回	開催年月	開催地	テーマ	主催	共催	後援
第1回	2007年 6月	茨城県 阿見町	有機農業の採種と 育種技術を考える	有機農業 技術会議		
第2回	2007年 9月	京都府 京都市	有機農業の新規就 農を考える	有機農業 技術会議		
第3回	2007年 11月	長野県 松本市	有機農業大学講座 & 有機農業の堆肥 と土づくりを考え る	有機農業 技術会議	長野県有機農 業研究会	農林水産省、長野 県、松本市、長野県 農業会議、信州大 学、JA 長野中央会
第4回	2008年 7月	福島県 郡山市	有機農業を基本か ら考える	有機農業 技術会議		農林水産省、福島 県
第5回	2008年 10月	島根県 浜田市	有機農業大学講座	有機農業 技術会議		農林水産省、島根 県、浜田市、島根県 立大学、JA 島根中 央会、島根有機農 業協会
第6回	2009年 11月	高知県 高知市	有機農業の施設栽 培を考える	有機農業 技術会議	高知県有機農 業推進連絡協 議会、「有機農 業技術公開セ ミナー in 高 知」実行委員 会、高知県	農林水産省、高知 市、高知大学、JA 高知中央会、高知 県園芸連、高知県 有機農業研究会
第7回	2010年 2月	北海道 津別町	安全・安心の大規 模農業を考える	有機農業 技術会議	津別町有機農 業推進協議 会、津別町、津 別町農業協同 組合	農林水産省、北海 道
第8回	2010年 11月	石川県 金沢市	大規模稲作を考え る	有機農業 技術会議	石川県有機・ 減農薬農業振 興協議会、金 沢市有機農業 推進協議会	農林水産省、石川 県、金沢市、石川県 農業協同組合中央 会
第9回	2011年 1月	山梨県 山梨市	果樹栽培の可能性 を考える	有機農業 技術会議	やまなし有機 農業連絡会議	農林水産省、山梨 県、長野県、山梨 市、長野県有機農 業研究会

回	開催年月	開催地	テーマ	主催	共催	後援
第10回	2011年 12月	奈良県 宇陀市	野菜の安定生産と 流通を考える	有機農業 参入促進 協議会	宇陀市有機農 業推進協議 会、宇陀市	農林水産省、奈良 県、奈良県農業協 同組合
第11回	2012年 2月	大分県 臼杵市	土づくりと地域の 未来を考える	有機農業 参入促進 協議会	おおいた有機 農業研究会、 おおいた有機 農業推進ネッ トワーク	農林水産省、大分 県、臼杵市、豊後大 野市、JA 大分中央 会、朝日新聞社、毎 日新聞社、読売新 聞西部本社、大分 合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テ レビ大分、OAB 大 分朝日放送
第12回	2012年 10月	岡山県 瀬戸内 市	食と農による地域 づくりを考える	有機農業 参入促進 協議会	農と食による 地域づくり研 究会	農林水産省、岡山 県、瀬戸内市、岡山 商科大学
第13回	2013年 2月	東京都 渋谷区	新規就農支援を考 える	有機農業 参入促進 協議会	日本有機農業 研究会、國學 院大學環境教 育研究プロジ ェクト、渋谷・ 環境と文化の 会	
第14回	2014年 3月	福島県 福島市	有機農業が地域に 広がることのメリ ットを考える	有機農業 参入促進 協議会		農林水産省、福島 県、福島市、福島県 有機農業ネットワ ーク
第15回	2014年 11月	岐阜県 恵那市	土づくりと中山間 地域農業を考える	NPO 法 人有機農 業参入促 進協議会		農林水産省、岐阜 県、恵那市
第16回	2015年 10月	東京都 渋谷区	土づくりと有機農 業を考える	NPO 法 人有機農 業参入促 進協議会	日本有機農業 研究会、國學 院大學環境教 育研究プロジ ェクト、渋谷・ 環境と文化の 会	農林水産省

第 17 回	2017 年 8 月	熊本県 南阿蘇 村	継承、そして新たな地平を拓く—— 技術、経営、暮らし	NPO 法 人有機農 業参入促 進協議会	くまもと有機 農業推進ネッ トワーク	農林水産省、熊本 県、熊本市、八代市、 人吉市、荒尾市、水 俣市、玉名市、天草 市、山鹿市、菊池市、 宇土市、上天草市、 宇城市、阿蘇市、合 志市、美里町、玉東 町、和水町、南関町、 長洲町、大津町、菊 陽町、南小国町、小 国町、産山村、高森 町、南阿蘇村、西原 村、御船町、嘉島町、 益城町、甲佐町、山 都町、氷川町、芦北 町、津奈木町、錦町、 あさぎり町、多良木 町、湯前町、水上村、 相良村、五木村、山 江村、球磨村、苓北 町、JA 熊本中央会、 東海大学農学部、熊 本県有機農業研究 会、環境保全型農業 技術研究会、宇城有 機農業プロデュース、 山都町有機農業協 議会、人吉市有機 農業推進協議会、福 岡県有機農業研究 会、ひとよしアイガ モ農法研究会、くま もと有機の会、九州 EM 普及協会、くま もと EM ネット、大 矢野有機農産物供 給センター、肥薩自 然農法グループ、人 秀明自然農法ネッ トワーク、九州産直 生産団体協議会、果 実堂、MOA 自然農 法文化事業団、自然 農法国際研究開発 センター、マルタ
--------	---------------	-----------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------	--

第 18 回	2018 年 2 月	東京都 渋谷区	農と食の未来を考 える	NPO 法 人有機農 業参入促 進協議会		農林水産省、渋谷・ 環境と文化の会、次 代の農と食を創る 会
第 19 回	2021 年 3 月	オンラ イン	有機施設トマト栽 培を考える	NPO 法 人有機農 業参入促 進協議会		
第 20 回	2021 年 4 月	オンラ イン	有機柑橘栽培を考 える	NPO 法 人有機農 業参入促 進協議会		
第 21 回	2021 年 8 月	オンラ イン	土づくりと新規就 農への道を考える	NPO 法 人有機農 業参入促 進協議会		
第 22 回	2021 年 11 月	オンラ イン	農産物の魅力を伝 える～生産者と消 費者を結ぶ視点か ら	NPO 法 人有機農 業参入促 進協議会		
第 23 回	2022 年 3 月	オンラ イン	美しくおいしい有 機野菜を生産・販 売するために	NPO 法 人有機農 業参入促 進協議会		

※ここに紹介した公開セミナーの資料集は、ウェブサイト「有機農業をはじめよう！」に公開しています。「データベース 講習会資料」よりダウンロードが可能です。

本資料の複製、転載および引用は、必ず原著者の
了承を得た上で行ってください。

2022 年 3 月 18 日発行

有機農業をはじめよう！ No.14

NPO 法人有機農業参入促進協議会事務局
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-5-12
偕楽ビル（新末広）3 階 株式会社マルタ内
TEL : 050-5362-1815 FAX : 050-3457-8516
Email : office@yuki-hajimeru.net
Website: yuki-hajimeru.net



有機農業をはじめよう！

NPO法人 **有機農業参入促進協議会**

yuki-hajimeru.net



NPO 法人有機農業参入促進協議会（有参協）では、有機農業をはじめたい方を応援しています。全国の有機農業者、有機農業推進団体と連携して、研修先、相談窓口、経営指標などの情報発信や相談会、実践講座、公開セミナーの開催など、さまざまな活動を行っています。